



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110~120周年
標語

共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2023年12月1日 (金) 第833号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人/ 梁榮友・編集人/ 鄭守煥

印刷所 青丘文化社

聖誕節
説教

あなたがたのために、 救い主がお生まれになった

＜ルカによる福音書2:11＞

尹鐘憲 牧師 (明石教会)



Merry Christmas !

クリスマスは歴史の転換点になる日です。主イエスの誕生によって、人類の歴史が紀元前と紀元後に分けられるほどに人間にとって偉大な出来事である日なのです。「クリスマス」という言葉は本来「キリスト」と、礼拝の意味を持つ「マス」との合成語で「キリストのための礼拝」という意味なのです。つまり「クリスマス」とは、聖書に預言された救い主の誕生を喜び、礼拝することをさしているのです。しかし歳月を経て、キリストがいない祭り、キリストとは、全く関係のない祭りになってしまいました。クリスマスはケーキを食べて、プレゼントをやりとりする日になってしまいました。

では、「クリスマス」とはどのような日でしょうか。ルカ2:11に「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」と語られているように、クリスマスは「私たちのために、神の御子である救い主がお生まれになった日」なのです。とすれば「クリスマスの中心と主人公は人ではなく、イエス・キリストです。クリスマスはイエス・キリストの誕生をお祝いして感謝の礼拝を捧げる日です。従ってクリスマスは人類にとって大きな祝福の日であり、大きな喜びが溢れる日なのです。

世界で最初のクリスマスの日、御使いは羊の群れの番をしていた羊飼いたちに大きな喜びの知らせを伝えました。それは救い主のご降誕という思いもかけない素晴らしい知らせでした。ところで、どうして神は当時社会的に見下げられていた羊飼いに世界で最初に救い主のご誕生を伝えたのでしょうか。それはこの救い主が社会的な身分を問わず、全ての人々を罪から救うお方だからです (マタイ1:21)。ですからクリスマスは神を信じるクリスチャンだけでなく、ノンクリスチャンにとっても、大きな祝福の日であり、大きな喜びが溢れる日です。

神が人間の形を取って、この世に來られた日です。マタイ1:20後半で「マリアの胎の子は、聖霊によって宿ったのである」と語られているように、イエスは聖霊によって懐妊されて、誕生されたお方ですから罪が全くありません。イエスが聖霊によって懐妊されて、誕生された理由は私たちの罪を赦して救い出してくださるお方は罪が全くないようにするためであり、イエスが人間の形をとって來られた理由は人間の罪の身代わりに

なって十字架で死ぬためでした。

従って、クリスマスは「完全な人間」であり、同時に「完全な神」の性質をもっているイエスがこの地に來られた祝福の日です。神の独り子の御子であられるイエスを私たちに与えてくださった神に感謝と賛美の礼拝を捧げる日なのです。そうです。マタイ1:23で「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。」と語られているように、イエスは私たちを全ての罪から救うために來られた救い主であり、私たちと共におられるインマヌエルの神であります。主イエス・キリストは、あなたがたのためにお生まれになった救い主です。この方こそ主キリストです。罪人であった私は、主イエス・キリストの恵みによって神の怒りから救われました (ローマ3:24)。神の敵となっていた私が主イエス・キリストの恵みによって神と和解することになりました (ローマ3:25)。罪人であった私が罪の奴隷から解放されて神に属する義人と認められたのです (ローマ3:26)。ですから、クリスマスを迎えてもう一度、この救いに感謝し、驕ることなく、へりくだる心を持って、神の御前に生きましょう。2000年ほど前にこの世に來てくださり、十字架で死なれ甦られ、私たちの救いを実現してくださった主イエス・キリストが、再びこの世に來てくださる再臨を待ち望みつつ生きていかなければなりません。

今年のクリスマスは、神に栄光と礼拝を捧げるクリスマス、平和と喜びが溢れるクリスマスになるように心より祈りましょう。また神が与えてくださった平安を通して隣りの人々に神の平和を伝えましょう。これからは、恨みや不平をつぶやくよりは、感謝と喜びをもって隣りに神の愛を伝えましょう。隣人の罪を裁くよりは、神の愛で救い、愛し合ひましょう。このような心が主イエス・キリストの御心であり、クリスマスを迎える私たちの心でなければなりません。神には栄光を捧げ、人々には平和を伝えるピースメーカーになることができますように、主の御名によって祝福いたします。今年のクリスマスも、御言葉を覚え、私たちに永遠のいのちを与えてくださった主イエス・キリストを堅く信じ、主を仰ぎながら、御言葉に従って、主と共に歩んで行こうではありませんか。

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格:2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは總會事務所へ

講壇掛・ストール販売



在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。

価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円(約半額)

講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。※お求めは總會事務所へ

青年会全協

創立60周年記念集會を開催 全国青年との継続的連帯を確認

2023年11月3日、青年会全国協議会（全協）は、主の恵みと多くの方々の支えによって、60周年記念集會を開催した。集會では、新たに総会長になられた梁榮友牧師が『回復が訪れる全協』（使徒3：1～10）の題で開会礼拝の説教をされ、個教会で青年の数が少なくなる中、信仰と祈りをもって乗り越えるよう励まされた。また、新たに副総会長となられた申大永長老のほか、関東や中部地方の遠方からもたくさんの牧師、長老、執事、全協のOB・OGの方々が、お祝いと励ましのため、足を運ばれた。青年たちは全国から集まり17名が参加。全体では若干50名の参加であった。遠地よりご足労いただいた方々、関係者の方々に、この場を借りて全協から深く感謝の意を申し上げたい。

全協の歴史を振り返る特別講演では、大阪教会の梁陽日長老が、『全協60周年とその意義について』と纏められた資料を用いつつ、記念大会の意義を語られた。講演では、1933年に開催された在日朝鮮基督教会勉勵青年会総会が、全国青年会の始まりであり、在日大韓基督教会としては全国青年会の90周年を迎えたと振り返った。民族性も国籍も多様化した現代に、全協がどのようなミッションとビジョンをもって働きかけていくのかを問う機会となった。

全協実行委員からは、今年度注力した「全国個教会訪問」の報告のほかに、クリスチャン青年たちの生きざまを描いた寸劇

『クリスチャン青年の生き方って?』の披露、青年による『愛をもって生きていこう』の賛美があった。そして最後は、大阪教会奉仕部の協力により、茶話会を実施し、交流を深めた。

全国的に青年たちの教会離れが叫ばれるなか、記念大会を開催できたことは大きな恵みであった。危機的状況なのは変わらないが、交流を通して役員が分かち合ったのは、全国にはまだまだ呼びかけに反応してくれる青年たちがいるという事実である。全協は、個教会訪問で出会った青年たちとの関係を途絶えさせることなく、今回の記念集會をきっかけに、ますます神さまの力を受けながら青年活動の大きな動きが生まれることを願って活動したい。「全国の信仰の友とともに神さまに出会う青年たちの居場所」づくりの為、全国諸教会の皆さまの引き続きのご支援とお祈りをお願いしたい。

連絡先:zenkyokccj@gmail.com。(報告:大阪教会 韓宣榮伝道師)



全国女性会

第11回在日・日・韓NCC女性 委員会連帯交流会議開催

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、中断せざるを得なかった第11回在日・日・韓NCC女性委員会連帯交流会議が2023年11月15日(水)～17日(金)、在日韓国基督教会館(KCC)で「主に接ぎ木された者として、周縁化された場で手をつなぐ私たち」という主題で行われた。

全国教会女性連合会崔美恵子副会長により、「私たちが在日がホストとして、初めてこの連帯交流会議が開催できることにスタッフ共々大きな感謝と喜びを感じる」、NCC J女性委員会北村恵子委員長により、「6年ぶりの連帯交流会議をご一緒できて、心から歓迎する」と歓迎の挨拶が述べられた。NCCK委員長金珠蓮士官より、「キリスト教女性たちが互いに尊重と信頼の中で連なり、着実にその関係を肯定的に築いてきたことに改めて驚き、神様に感謝する」と感謝の挨拶があった。

在日・日本・韓国のキリスト教女性たちは1996年に第1回日韓NCC女性委員会交流連帯会議を始めて以来、2003年、第5回韓・在日・日NCC女性委員会連帯交流会議として拡大し交わりを続けてきた。その間、東北アジアの様々な課題を共有、相互交流し、和解と平和の新しい歴史を開拓するために共に歩んできた。

今回の会議は、韓国9名、在日23名、日本20名が参加し、開



会礼拝、主題講演、ディスカッション、歓迎の交流会、フィールドワーク・映画上映会、発題、グループ討論の時間を持ち、聖書研究、宣言文採択、閉会礼拝の順で進行した。

二泊三日の間、在日・日・韓NCC女性委員会連帯交流会議を通して、紡ぎだした宣言文一部とアクションプランを共有する。在日大韓基督教会に連なる皆様と、共に祈り共に実践していくことを願う。

<宣言文>

いまわたしたちは、周縁化された者として、過酷な差別の現実の中で、採択した在日韓国・朝鮮人の声を聴きあった。歴史の動乱や不条理の中で社会的に疎外されたHer storyがOur storyとなり、新しい気づきと悔い改めと希望を与えられた。わたしたちは「主に接ぎ木された者として」、誰もが差別されない世界をめざし、次のように行動することを宣言する。

アクションプラン

1. わたしたちは既存の与えられた枠ではなく、一人ひとりの視点で聖書を読み直す。
2. わたしたちは多様な文化を豊かな恵みとして認めあい連帯する。
3. わたしたちは、教会改革のために女性が全ての意思決定に参加できるよう積極的に行動する。
4. わたしたちは可能な活動と情報を共有し、協同行事を行う。
5. わたしたちは在日韓国・朝鮮人との交流を通して、人権侵害と差別、特に朝鮮学校(ウリハッキョ)に対する不当な差別と憎悪扇動に反対し行動する。
6. わたしたちは、すべての戦争と紛争に反対し、平和のために祈り行動する。特に、日本国憲法第9条を守り、改悪に反対する。

2023年11月17日

在日・日・韓NCC女性委員会連帯交流会議 参加者一同
(報告:全国教会女性会会長 宋福姫)

日キ教会と宣教協力委員会開催 ラップワークショップを開き、各自演じる

2023年11月23日、午前11時から午後5時にかけて、日本キリスト教会との宣教協力協議会が、日本キリスト教会柏木教会（東京大久保）にて開かれた。

双方の牧師・長老・青年合わせて約30名が集った。11時からの開会礼拝では張慶泰牧師（総会副会長）の司式のもと、大石周平牧師（日本キリスト教会渉外委員）がルツ記2：8-14をもとに「まなごしに恵みを、信に報いる連帯を」という題でメッセージを伝えた。大石牧師は、歴史的背景の違う双方がまなごしを交わすなかで訪れる出会いのなかで、主の望まれる倫理をあらわすことの意義について語られ、梁栄友総会長の祝祷をもって礼拝を終えた。

愛さんの後、午後は、ラッパーの詩人のFuni（郭正勲）兄弟（在日大韓基督教会）が、ラップワークショップをおこなった。各自が自分の刻んできた人生の歩みを詩にしラップを演じた。音楽にのせて自分の綴った詩を録音し、作品としてみなが分かち合う時をもった。苦悩に一旦が示される詩が、本人の中にとどまることなく、韓国語、日本語、英語で語られ他者と共有されることで、ぬくもりと希望に満ちた詩・詞になるという不思議な敬虔を共有した。

恵みの時の後、宣教協約委員会では、双方の活動報告のあと、牧会者不足の現況や宣教師の受け入れなど。共通の宣教課題について対話を重ねたのち、次回の協議会の日程を、2024年11月21日（木）とし、閉会した。
（報告：金迅野牧師）

大阪教会

姜富三名誉長老が召天 シオン聖歌隊員他、教会発展に貢献



大阪教会の姜富三名誉長老が、2023年9月30日に神様に召され、大阪教会において鄭然元牧師の司式のもとで葬儀が行われた。享年82歳。

故人は、1941年韓国で生まれ、1973年金徳成牧師より受洗、1998年長老として将立されてから大阪教会のシオン聖歌隊員として奉仕するなど教会の発展に貢献した。

大阪教会

金秀男名誉長老が召天 在日本韓国YMCA総務として活躍



大阪教会の金秀男名誉長老が、2023年11月15日、持病によって天に召され、大阪教会において鄭然元牧師の司式により葬儀が行われた。享年73歳。

故人は、1949年日本で生まれ、生涯大阪教会で信仰生活を送り、1998年に長老に将立された。在日大韓基督教会の年金委員長とマイノリティー宣教センターの理事長を歴任し、長年関西韓国YMCAや在日本韓国YMCAの総務として発展に貢献した。

《お詫びと訂正》

福音新聞第10月号の4面の記事の中で、掲載した写真説明が間違っていましたので、以下の通りお詫びして訂正します。

“福島瑞穂議員と共に宗教者平和ネット院内集会にて
於 衆議院第二議員会館 2023年9月21日”

関西地方会

サンクスフェスティバル開催 女性部・壮年部・青年部が共催で

去る10月15日（主日）午後3時から大阪北部教会において、第12回サンクスフェスティバルが関西地方会女性部・壮年部・青年部共催で対面形式により開催された。

今回は「みんなでつながりα（アルファ）になろう」という主題で12教会から110名が参加して主の恵みに感謝をもって分かち合った。

第一部「礼拝」では枚岡教会裴貞愛牧師が、「喜んで感謝と賛美をささげよ」（詩編100：1～5）と題してメッセージが語られた。

第二部「講演」では昨年京都南部教会担任牧師とし就任した新井由貴牧師が「共に分かち合う主の恵み」をテーマにしてメッセージが語られた。メッセージでは聖書を引用しながら1. 神の家族の一員、2. 神の家族としての教会、3. 神の家族として生きる祝福と責任、4. キリストの体、について自身の生い立ち、神への献身から現在に至るまでを織り交ぜながら語り、メッセージの終わりにいつも教会学校の子どもたちと分かち合っている賛美を共に献げた。

第三部「公演」では、平野教会ベトナム人青年会による賛美が行われ、出席者皆が立ち上がり、拍手しながら約20分間恵みの時間を分かち合った。

今回は関西地方会所属の女性牧師が礼拝、講演を担当し、ベトナム人青年会が公演を行った。在日韓国人やニューカマー、日本人にこだわらず日本在住の外国人も共に教会に集い、主なる神様に礼拝を捧げ、賛美と恵みを分かち合う教会へ変化していくことの大切さを切に感じる事ができた。今後も感謝節の時期に女性部・壮年部・青年部共催で力を合わせ日本在住の人々への宣教活動を繰り広げ、関西地方会のみならず総会をも盛り上げて行きたい。
（報告：関西地方会壮年部）



隠退牧師動静

明石教会 李聖雨 名誉牧師



姫路薬水教会の説教牧師として奉仕しています。（2019年から現在まで）

短時間であるが仕事もしているから健康にも良いし、生活にも助かります。

説教奉仕の期間（5年）が終了すれば自然の中に入り、土を触りながら少しでも地域社会に寄与したいです。また、日本を紹介しているe-book、「이것이 선진 일본의 터닝포인트였다」の続きを書き続く予定です。

<年末年始業務案内>

総会事務局は年末年始下記の期間業務を休業いたします。
《2023年12月27日～2024年1月4日》

アジアキリスト教協議会第15回総会に参加して(2)

鄭 詩 温 伝道師

アジアキリスト教協議会(CCA)第15回総会が、2023年9月27日から10月4日までインド南部のケララ州にある都市、コッタヤムにて「神よ、御霊のうちに私たちを新しくし、そして被造物を修復してください (God, Renew Us in your Spirit, and Restore the Creation)」をテーマに開催された。東方教会系のマル・トマ教会の礼拝堂とホールを会場に、加盟教会・教団とNCCの代表者だけでなく、太平洋地域や欧米のエキュメニカルパートナーら500余名が集った。投票権を持つ代表者は146人で、うち女性は51人、30歳未満の青年は34人だった。温かく受け入れてくださったコッタヤムの教会・教団の皆さんが心から総会参加者を歓迎してくださったことは感謝であった。

CCA総会の豊かさは開会礼拝からも垣間見ることができた。太鼓の音が響く中、礼拝が始まり、聖歌隊が歌う賛美に合わせて会衆は声をひとつにして「私たちはイエスのもとに集まった家族であり、ひとつの食卓、ひとつの杯、ひとつの光を分かち合う」と宣言した。CCAは、アジア内外の教会間の分かち合いと交わり、変化するアジア社会の課題への応答、人間の尊厳、被造物への配慮のために尽力している協議会である。この礼拝はまさにCCAの存在を象徴するような時であった。

基調演説では、世界教会協議会(WCC)のジェリー・ピレイ総幹事が気候生態問題について私たちに託されている役割について述べた。「キリストの愛が世界を和解と一致へと導くように、私たちはメタノイアと、被造物との新しく公正な関係へと召されている」と語り、神の被造物を修復するために祈り、歩み、働き続けることを勧奨した。

総会では、決議を行うビジネスセッションの時だけを持つのではなく、総会全体を通して、主演講演と3つの副主題講演が行われ、講演者たちはそれぞれの視点からテーマを取り上げた。主題、副主題の内容をより細部に分けた15の多様なテーマの中から話し合う時があり、今総会の特別な特徴ともいえる「チャーチャ」(Churcha、マラヤーラム語で「議論、考え、意見などの共有」を意味)セッションがあった。私は副主題と最も近い「満たされたいのちと創造の回復の神学」というトピックを選んだ。「満たされたいのちと創造の回復の神学」は、「神の宣教」に私たちも参与するという教会の召命と強い結びつきがある。つまり、神さまの造られたすべての被造物と共に生きること、そして地に仕える者としての教会の召命を確認する「地球を守る者(earth-keepers)」の重要な役割が強調されている。今総会のテーマの中には「新しくする(renew)」と「修復(restore)」という言葉が入っているように、気候危機に直面している私たちはこの問題についてどのように対応するべきなのか、被造物世界の修復のために何ができるのかが問われている。私たち人間は、利益と社会成長

に焦点を当てるあまり、被造物すべてに対するいのちの配慮を忘れて、あるいは見て見ぬふりをしてきた。それゆえ、社会倫理と生態倫理に関わり、剥奪、排除、分断に対抗することが今、求められている。

日曜日はアジア祈祷日として、55グループに分かれてコッタヤムとその周辺にある地元の教会の礼拝に参加した。アジア祈祷日は毎年、聖霊降臨の前の日曜日に行われているが、今年は総会に合わせて共に祈りの時を持つことができた。地元の教会に温かく迎えられ、つながりを築く機会を得ただけでなく、ケララ州の歴史ある教会の豊かな典礼の伝統に触れることのできる貴重な時となった。ケララ州は、インドの全州の中でキリスト教人口が最も多い。インドにキリスト教を伝えたのは十二使徒のひとりである聖トマスであると伝えられている。紀元後52年、南インドの西海岸(現在のケララ州北部、マラバル海岸)にやって来た聖トマスがマラバル海一帯に7つの教会を設立し、その後東海岸へ移動しマドラス(現チェンナイ)で亡くなったとされる。

マシュー・ジョージ・チュナカラ総幹事による報告では、前総会であるジャカルタ総会后、8年間で合計224のプログラムが開催され、合計9,693名が参加した。今総会では、これまでのCCAによるエキュメニカルな歩みを評価する機会でもあった。総幹事は、「私たちは、キリストに属し、キリストのうちにいるという現実を受けとめて、アジアエキュメニカル共同体の一員として成長し、これからも歩まなければならないことを認識する必要があります。一致という共通の証しを達成するために、旅を続けようではないか」と語った。

インドでの貴重な時間を過ごし、日常生活に戻った今、私がCCA総会で見て学んだことをどのように私たちの生活の現場で生かしていくかについて考えさせられた。科学技術の発展と移住労働者の増加により、ますます多様性が可視化されている日本社会において、私たちは何ができるのか。CCA常議員の一人として選出された者として、アジアの教会における様々な問題や課題を他人事ではなく、在日大韓基督教会も共に連帯し、協力していけるよう声を上げていきたい。



2024年度 牧師・伝道師考試及び宣教師加入考試

「2024年度牧師・伝道師考試及び宣教師加入考試」を以下のように入実施します。詳細の案内と請願書などは総会のホームページ (<http://kccj.jp>) をご参照ください。

一. 日 時：2024年3月11日(月)

- ・ 10:00～ オリエンテーション
- ・ 10:30～17:00 筆記試験
- ・ 17:00～ 面接

* 試験終了後、順次面接を行います。

二. 場 所：在日韓国基督教会館(KCC)

三. 申請(書類提出)：2024年2月12日(月)(必着) 総会事務局

四. 提出先：総会事務局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-55

電話番号 (03)3202-5398 FAX (03)3202-4977

神学考試委員会

委員長 金聖孝、書記 朴栄子

(問い合わせ TEL 090-6677-3492)